

武蔵野大学学術機関リポジトリ Musashino University Academic Institutional Repository

身体意識についての研究

著者	北岡 和彦
雑誌名	The Basis : 武蔵野大学教養教育リサーチセンター 紀要
号	3
ページ	131-141
発行年	2013-03-01
URL	http://id.nii.ac.jp/1419/00000036/

身体意識についての研究

北岡 和彦

はじめに

青年期におけるパーソナリティ発達と自己の身体に対する意識・態度との間には、深い関連性があるといわれている。^{2) 9) 10) 15)}

Secord, P. F., と Jourard, S. M.¹⁶⁾ は、包括的なパーソナリティ理論における身体に対する態度の重要性を強調し、身体に対する態度を Body Cathexis (以後 BC と略す) の観点からとらえようと試みた。すなわち、BC とは精神分析的な意味と異なり「自己の身体部位や諸機能に対して個人が持っている満足・不満足の種類」と定義し、その測定手段としていくつかの BC-Scale を開発し調査を実施した。その結果、BC と Self-Cathexis (以後 SC と略す) との関係性について多くの知見を見出している。^{15) 16)}

また Rosen, G. M. と Ross, A. I. (1968)¹⁵⁾ は、この Secord らの研究に注目し、彼らの研究において刺激部位として用いられた各身体特性 (Body Characteristic) に対する個人の主観的な重要性 (Importance) を考慮して研究を進めた結果、自己と身体に対する感情との間に、先行研究の結果に比べより大きな相関係数を見出している。

更に Lerner, R. M.^{9) 10)} らは、BC にかかわる要因として、身体的な魅力 (Attractiveness) をとりあげ、BC を決定する際の重要な要因の一つとして研究を進めたが、BC と SC との相関係数を増大する結果は見いだせなかった。しかしながら、彼らは青年期のパーソナリティ発達においては、男子と女子ではそれぞれの内的世界において異質な身体的作用が存在するのではないかという課題を提示し、異性間における身体的作用を決定する際の意識の違いについて追及した。

筆者も、この Lerner, R. M.^{9) 10)} らの調査方法に基づいて、1977 年と 1995 年において、青年期における女子学生の身体に対する意識について調査を実施し、いくつかの知見を得ている。しかし、BC の経年的変化についての課題は残ったままである。⁷⁾

本研究の目的

青年期のパーソナリティ発達において重要な要因として考えられる個人の身体に対する意識は、社会的・文化的な時代背景の変化により大きく影響されることが推測される。

そこで本研究では、現在の女子学生が自分の身体に対する意識について、その実態の一端を明らかにするために、以前筆者が行った調査 (1977 年、1995 年) と同様な調査を実施し、経時的変化の視点から女子学生の身体意識について比較検討することを目的とする。

また本研究では、BC と SC との関係だけではなく、体型に関わる BMI (Body Mass Index) や運動経験との関係についても検討することを目的とした。

調査の方法

- ・対象者：M 大学女子学生 1・2・3 年生 156 名
平均年齢：20 歳 2 ヶ月
- ・調査実施日：平成 24 年 12 月 2 回にわたり授業時に教室にて実施
調査の説明や教示は筆者が口頭にて説明

調査の内容と評価方法

本研究で使用した調査内容は、Lerner, R. M.^{9) 10)}らの開発した測定尺度を参考に一部修正し作成したもので、身体の魅力 (Attractiveness) の視点からその意識の程度を測定するための尺度である。

調査は、自己及び異性の魅力を考える際に、24 項目それぞれの身体特性をどの程度意識するかについて評価する A・B 尺度と自己の身体に対する満足度を評価する C 尺度、そして自己概念 (SC) を評価する D 尺度の合計 4 つの尺度から構成されている。

4 つの尺度の測定内容は、次の通りである。

A 尺度：異性に対するあなた自身の魅力を考える際、自己の各身体特性のそれぞれについてどの程度意識しますか。

B 尺度：異性の魅力について考える際、異性の各身体特性のそれぞれに対してどの程度意識しますか。

C 尺度：自己の各身体特性のそれぞれに対して、どの程度満足していますか。

以上の A・B・C 尺度において評価を求められた身体特性 (Body Characteristic) は、身体の外見や容姿 (Appearance) に関わる特性に限定した以下の 24 項目である。

1. 顔の色つや	F a c i a l c o m p l e x i o n
2. みみ	E a r s
3. 胸 (バスト)	C h e s t
4. 横顔	P r o f i l e
5. 身体の均整	W e i g h t d i s t r i b u t i o n
6. 目	E y e s
7. 身長	H e i g h t
8. 足首	A n k l e s
9. ウエスト	W a i s t
10. 腕	A r m s
11. 脚の形	S h a p e o f l e g s
12. 容姿	G e n e r a l a p p e a r a n c e
13. ヒップ	H i p s
14. 肩幅	S h o u l d e r w i d t h

15. 口	M o u t h
16. 首	N e c k
17. 歯	T e e t h
18. 鼻	N o s e
19. あご先	C h i n
20. 髪の毛の性質	H a i r t e x t u r e
21. 体格	B o d y b u i l d
22. 髪の毛の色	H a i r c o l o r
23. 大腿	T h i g h t
24. 顔	F a c e

これら24項目の身体特性それぞれについて、被験者の意識および感情の程度に応じて、次のごとくAからEの5件法により評定させ、その結果をA：1からE：5に得点化し処理した。

A尺度およびB尺度においては、

- A：全く意識しない
- B：あまり意識しない
- C：どちらでもない（中間点）
- D：やや意識している
- E：かなり意識している

C尺度においては、

- A：非常に不満である
- B：少し不満である
- C：どちらでもない
- D：やや満足している
- E：非常に満足している である。

またD尺度は、自己に関する以下の対称的な両極を示す16項目について評定する自己概念尺度（Self Concept Scale）である。

- 1. 未熟な ----- 成熟している
- 2. 男らしい ----- 女らしい
- 3. 依存的な ----- 自立的な
- 4. 狭量な ----- 寛大な
- 5. 自分を抑える --- 自分を抑えない
- 6. 不運な ----- 幸運な
- 7. 心配性な ----- 安心している

- 8. 理知的でない --- 理知的な
- 9. 自信がない ----- 自信がある
- 10. 消極的な ----- 積極的な
- 11. 親しみにくい --- 親しみやすい
- 12. 服従的な ----- 支配的な
- 13. 無能な ----- 有能な
- 14. 協調的でない --- 協調的な
- 15. 非社交的な ----- 社交的な
- 16. 小心な ----- 大胆な

以上の16項目について、各自の認識に応じて以下に示すAからEの5件法により評定させ、その結果をA:1からE:5に得点化した。

- A:左端の言葉が最もよく私の特徴を示している
- B:左端の言葉がいくらか私の特徴を示している
- C:私は中間に位置する
- D:右端の言葉がいくらか私の特徴を示している
- E:右端の言葉が最もよく私の特徴を示している

本質問紙を用いて調査を行う際、できるだけ被験者の反応の構えを除去するために、以下の教示内容を調査用紙の表紙に付記するとともに、調査時に筆者が読み上げ注意を促した。

『一般に、誰でも自分自身の頭の中に自己の身体特性について何らかのイメージや意識をもつものです。たとえば、異性に対して魅力を感じさせていると思っている身体特性について意識することがあります。

また、あなたにとって魅力のある異性の身体特性に対して意識をすることがあります。さらに誰でも自分の容姿に対してさまざまな満足度を持っていると思います。

この調査は、そのような身体特性に対する意識や満足の程度について調べようとするものです。私達があなたに対して「こう答えるように望んでいるのではないか」とか「こうあるべきだ」と考えて答えないようにしてください。実際に感じるままに答えるようにお願いします。』

なお調査は、説明用紙と記入用紙にわかれ、記入用紙には、年齢、身長、体重のほかにも小学・中学・高校時代の運動経験の有無についても記入させた。

結果の処理

1. 被験者自身が自己及び異性の魅力を考える際、各身体特性に対して抱いている意識の程度を知るためにA・B尺度、被験者の自己の身体特性それぞれに対する満足の程度を知るためにC尺度を用いて調査し、その結果を各身体特性毎に平均値と標準偏差を算出し

- た。またその得点に基づき、各尺度全体としての評定平均値および標準偏差を算出した。
2. 被験者の自己に対する 16 項目それぞれの特性に対する認識の度合いを知るために、D 尺度を用いてその特性に対する評定得点を求め、D 尺度全体に対する評定平均値および標準偏差を算出した。
 3. 各被験者の身長、体重より、公式に基づいて BMI (Body mass Index) を算出した。
 4. 身体に対する意識・態度と自己概念との関係性を検討するために、A・B・C・D 尺度および BMI 間相互の相関係数を算出した。
 5. 運動経験と身体満足度との関係を調べるために、中学・高校ともに運動部経験者と中学・高校ともに運動部未経験者のグループにわけ、その差を調べた。
- ※以上の結果は、以前筆者らが 1977 年に実施した調査結果と比較し、経年的変化について考察した。

結果および考察

1. A 尺度：異性に対する自分自身の魅力を考える際の意識について

表 1 は、異性に対する自分自身の魅力について、各身体特性毎の評定平均値と標準偏差を示したものである。

尺度全体としての平均値は、前回は 3.5、今回は 3.2 と今回の調査結果の方が前回に比べると低い評定傾向を示していることが推測される。この結果は、統計的にも有意な差が見出された。

また、各身体特性による平均値の順位づけを見ると、意識の高いと思われる身体特性は、平均値 4.1 の「顔」や「容姿」そして平均値 3.9 の「体格」などがみられた。前回においては、「顔」「体の均整」「容姿」などでありほぼ同様の傾向であった。

更に、各身体特性毎に前回と今回の平均値の差を比較してみると、評定平均値が前回よりも上昇した身体特性には、「顔の色つや」「腕」「髪の色」の 3 特性のみであり、その他の多くの特性においては意識のレベルが低下している傾向が見られた。このことは、多くの特性において統計的にも有意な差が見られたことから確認できる。

以上のように、女性が異性（男性）を意識した際の自分自身の身体に対する魅力への意識は、前回の調査に比べてその意識レベルが低くなっていることが推測された。

2. B 尺度：異性の身体特性に対する魅力を考える際の意識について

表 2 は、異性の身体特性に対する魅力について、各身体特性毎に評定平均値と標準偏差を示したものである。

各尺度全体としての平均値は、前回は 3.4、今回は 3.1 と幾分今回の調査結果の方が前回に比べて低い評定傾向を示していることが見出された。この結果は、統計的にも有意な差であり、前回に比べ今回の学生の方が、異性（男性）の身体特性に対する意識の程度が低くなっていることが推測された。

このことは、24 すべての身体特性の中で今回評定平均値が上昇した特性が、「腕」「髪の色」の 2 項目のみで、残りの身体特性のほとんどが前回の平均値よりも低く有意な差を

示した。

以上のことから、女子学生は自分自身の魅力に対してもそれに関わる身体への意識が低くなっていることがうかがえたが、それとともに異性に対する身体への意識においてもその傾向がより強くなっていることが推測された。

すなわち、前回対象となった女子学生よりも今回の女子学生の方が、自己あるいは異性にかかわらず総体的に身体に対する意識・態度においても低くなっていることがうかがえ、非常に興味ある結果であると受け止めた。

この結果については、今後さらに調査サンプルを増やすことや調査方法についても検討しながら継続的にその結果の意味を追求していくことが必要と考える。

表 1.A 尺度：異性に対する自分自身の魅力									
		2012年				1977年			差
		平均	標準偏差	順位		平均	標準偏差	順位	
1	顔の色つや	3.6	1.11	8		3.4	1.01	16	
2	耳	1.8	0.99	24		2.1	0.95	24	**
3	胸(バスト)	3.2	1.2	13		3.6	0.94	11.5	**
4	横顔	3.1	1.2	16		3.6	0.95	11.5	**
5	体の均整	3.7	1.07	5		4.3	0.84	1.5	**
6	目	3.9	1.11	4		4.1	0.98	4	
7	身長	3.2	1.22	12		3.4	1.16	16	
8	足首	2.3	1.23	23		2.7	1.16	22.5	**
9	ウエスト	3.5	1.14	9		3.7	1.02	8.5	
10	腕	3.2	1.09	10		3.2	1.15	18	
11	脚の形	3.6	1.14	7		3.7	1.09	8.5	
12	容姿	4.1	1.09	2		4.2	0.81	3	
13	ヒップ	3	1.23	19		3.7	0.94	8.5	**
14	肩幅	2.9	1.23	20		2.9	1.14	20	
15	口	3.2	2.5	13		3.7	1.03	8.5	**
16	首	2.5	1.03	21		2.8	1.05	21	**
17	歯	3.1	1.25	17		3.5	0.99	13.5	**
18	鼻	3.1	1.23	15		3.4	1.05	16	**
19	あご先	2.4	1.2	22		2.7	1.16	22.5	**
20	髪の色	3.7	1.1	6		3.8	1.04	6	
21	体格	3.9	1.04	3		3.9	1	5	
22	髪の色	3.1	1.26	18		3	1.13	19	
23	大腿	3.2	1.15	11		3.5	1.11	13.5	**
24	顔	4.1	1.13	1		4.3	0.75	1.5	
	全体	3.2	1.1			3.5	0.55		
						*P<0.05		**P<0.01	

表2 B尺度：異性の身体特性に対する魅力								
		2012年				1977年		
		平均	標準偏差	順位		平均	標準偏差	順位
1	顔の色つや	3.24	1.15	10		3.2	1	15
2	耳	1.8	0.92	24		2	0.94	23.5
3	胸(バスト)	1.91	0.99	23		2.8	1.1	20.5
4	横顔	3.45	1.07	8		3.9	0.8	7
5	体の均整	3.89	0.86	6		4.4	0.89	3
6	目	3.94	0.9	4		4.4	0.77	3
7	身長	4.08	1	3		4.5	0.73	1
8	足首	1.97	1.11	22		2	0.98	23.5
9	ウエスト	2.71	1.08	17		2.8	1.02	20.5
10	腕	3.53	1.16	7		3.2	0.91	15
11	脚の形	2.79	1.21	16		3.3	1.07	13
12	容姿	3.93	0.95	5		4.2	0.74	6
13	ヒップ	2.25	1.06	21		3.2	1.01	15
14	肩幅	3.42	1.14	9		3.7	0.95	8.5
15	口	3.11	1.11	13.5		3.7	0.89	8.5
16	首	2.44	1.08	19		2.7	0.91	22
17	歯	3.21	1.16	12		3.6	1.02	10.5
18	鼻	3.09	1.13	15		3.6	0.9	10.5
19	あご先	2.54	1.15	18		2.9	0.92	18.5
20	髪の色	3.11	1.14	13.5		3.4	1.06	12
21	体格	4.23	0.79	1		4.3	0.66	5
22	髪の色	3.23	1.14	11		3	0.96	17
23	大腿	2.43	0.98	20		2.9	0.91	18.5
24	顔	4.09	0.8	2		4.4	0.7	3
	全体	3.1	0.54			3.4	0.47	
*P<0.05 **P<0.01								

3. C尺度：自己の身体に対する満足度

表3は、自己の身体に対する満足度について、各身体特性毎にその評定平均値と標準偏差を示したものである。

尺度全体の評定平均値をみると、今回は2.7、今回は2.6を示し、従来 Body Cathexis に関連する研究結果とほぼ同様に、女子学生は自己の身体に対して幾分否定的な感情を持っていることがうかがえた。

また評定平均値による順位づけを見ると、前回と今回ともにほぼ同様な順位であることが確認できるが、満足度の低い傾向にある身体特性は、「大腿」「客の形」「体格」「ヒップ」「体の均整」「容姿」など身体のプロポーションに関わる特性であり、また比較的満足度の高い傾向を示す特性は、「耳」「髪の色」「首」など顔の部位に関わる特性が多く見られた。

今回特に特徴的な結果では、順位づけにおいて「目」の特性が、前回平均値3.2で3位であったものが、今回は平均2.7で10位と大きく順位を下げていることである。この結果については、今後更に調査を続ける中で検討したいと考える。

表3 C尺度：自己の身体特性に対する満足度								
		2012年				1977年		
		平均	標準偏差	順位		平均	標準偏差	順位
1	顔の色つや	2.76	1.129	9		2.6	1.08	10.5
2	耳	3.35	0.87	2		3.3	0.78	2
3	胸(バスト)	2.35	1.04	17		2.6	1	12.5
4	横顔	2.37	0.81	16		2.5	0.96	15.5
5	体の均整	2.19	0.9	22		2.2	1.03	24
6	目	2.71	1.25	10		3.2	1.12	3.5
7	身長	3.01	1.11	4		3	1.28	8
8	足首	2.88	0.95	6		3	1.07	8
9	ウエスト	2.42	1.06	15		2.5	1.17	15.5
10	腕	2.46	1.01	13		2.6	0.95	12.5
11	脚の形	2.26	1.12	20		2.3	1.03	21
12	容姿	2.16	0.94	24		2.3	0.89	21
13	ヒップ	2.19	0.87	22		2.3	0.97	21
14	肩幅	2.62	1	12		2.8	0.94	10.5
15	口	2.84	0.94	7		3.1	0.97	5.5
16	首	3.15	2.56	3		3.2	0.68	3.5
17	歯	2.67	1.11	11		2.5	0.98	15.5
18	鼻	2.46	0.99	13		2.4	1.03	18
19	あご先	2.83	0.89	8		3	0.73	8
20	髪の色	2.91	1.24	5		3.1	1.2	5.5
21	体格	2.28	1.03	19		2.3	0.94	21
22	髪の色	3.37	0.99	1		3.6	0.88	1
23	大腿	2.23	1.04	21		2.3	0.87	21
24	顔	2.29	0.99	18		2.5	0.98	15.5
	全体	2.61	0.49			2.7	0.45	

4. D尺度：自己概念尺度に対する評価

表4は、自己概念に関する16の項目に対する評価平均値と標準偏差を示したものである。

全体的にみると、前回と今回とで大きな評価平均値の差はうかがうことはできなかったが、ほとんどの特性において今回の方が低い平均値を示していることが見出された。特にその中でも、低い平均値を示した項目は「自信がない」「自分を抑える」「心配な」「未熟な」などであり、自分に対して自信のなさや否定的な感情を表す項目が多いように感じられた。

5. A・B・C・D各尺度およびBMIとの相関係数について

表5は、A・B・C・D各尺度およびBMIとの相関係数を示したものである。

これらのことから尺度Aと尺度Bおよび尺度Dとの間、尺度Bと尺度Dとの間、尺度Cと尺度Dとの間、さらにはBMIと尺度AおよびCとの間に有意な相関係数が算出された。

すなわち、女子学生の自分自身の身体に対する意識と異性の身体に対する意識とは関連性があること、また、自己の身体特性に対する魅力を意識することと身体に対する満足度

は自己概念との間に有意な相関があることが見出された。

さらには、BMI と身体に対する満足度との関係においては負の相関係数が見出され、肥満傾向を示す体型と身体満足度との関係を再確認することができた。

これらの結果は、従来の知見であるBCとSCとの関連性を支持するものである。

表 4. D尺度: 自己概念尺度に対する評価

			2012 年			1977 年		
			平均	標準偏差	順位	平均	標準偏差	順位
1	未熟な	— 成熟している	2.43	0.93	13	2.6	0.92	14.5
2	男らしい	— 女らしい	3.24	0.87	5	3.4	0.69	3.5
3	依存的な	— 自立的な	2.74	1.02	9	2.8	1.08	12.5
4	狭量な	— 寛大な	3.15	0.95	6	3.2	0.86	6
5	自分を抑える	— 自分を抑えない	2.4	1.04	14	2.6	1.09	14.5
6	不運な	— 幸運な	3.35	1.04	4	3.5	0.83	2
7	心配な	— 安心している	2.4	1.12	14	2.5	1.08	16
8	理知的でない	— 理知的な	2.83	0.94	7	3	0.7	9
9	自信がない	— 自信がある	2.29	1.13	16	2.9	0.86	11
10	消極的な	— 積極的な	2.63	1.16	12	2.8	1	12.5
11	親しみやすい	— 親しみにくい	3.39	1.12	2	3.3	1.05	5
12	服従的な	— 支配的な	2.74	0.82	9	3	0.83	9
13	無能な	— 有能な	2.67	0.86	11	3	0.72	9
14	協力的でない	— 協力的な	3.64	1.18	1	3.6	0.85	1
15	非社交的な	— 社交的な	3.37	1.14	3	3.4	0.97	3.5
16	小心な	— 大胆な	2.83	1.02	7	3.1	0.85	7
全体			2.88	0.49		3	0.46	

表5. 各尺度および BMI との相関係数

	BMI	A 尺度	B 尺度	C 尺度	D 尺度
BMI		0.161*	−0.086	−0.251**	−0.084
A 尺度			0.494**	0.009	0.198*
B 尺度				0.105	0.179*
C 尺度					0.402**
D 尺度					

* $P < 0.05$ ** $P < 0.01$

6. 運動部経験の有無と身体満足度（BC）および自己概念（SC）との関連性

被験者の中学・高校時代における運動部経験の有無と身体意識・態度および自己概念との関連性について検討した。このことは、運動経験が身体および人間の感情的側面に対して何らかの影響を及ぼすであろうという従来からの知見の一端を検証するためのところみである。

被験者全体の中から、中学・高校時代ともに運動部経験がある 64 名と、どちらにおいても運動部経験のない 43 名を抽出し、C 尺度（BC）と D 尺度（SC）について、その評定平均値の傾向を比較した。

その結果、表 6 に示す通り尺度 C の身体に対する満足度および尺度 D の自己概念において両者間の平均値に統計的に有意な差は見られなかった。しかし、両尺度において、運動部経験の方が運動部未経験者よりも高い評定平均値を示している傾向はうかがえた。

このことは、体育教育の観点からも非常に興味のある課題であると受け止め、今後運動部経験者と身体満足度や自己概念との関連性について更に追及していきたいと考える。

表 6. 運動経験の有無による評定平均値の差

運動経験	C 尺度(身体満足度)		D 尺度(自己概念)	
	有	無	有	無
人数	64	43	64	43
平均	63.8	61.6	47.6	45.9
標準偏差	11.53	11.16	8.26	7.58
差	N.S		N.S	

まとめ

以上今回の調査研究の結果をまとめると以下の通りである。

1. 女子学生は、自分自身および異性に対する魅力を考える際の身体に対する意識の程度は、前回の結果よりも低い評定傾向を示し、継年的に変化していることが推測された。
2. 女子学生の自己の身体特性に対する満足度は、従来の Body Cathexis 研究の知見と同様に、自分の身体に対して否定的な感情を抱いていることがうかがえた。
3. 前回と今回の調査結果ともに、自分自身に対する身体への意識の高い学生は、異性に対する意識の程度も高いこと、また同時に自己の身体に対する満足度の高い学生は、自己概念に対する評定も高いことがうかがえた。
4. BMI と身体満足度との間に負の相関が算出され、肥満に関わる体型と身体満足度との関係が確認された。
5. 今回対象となった女子学生において、中学・高校時代に運動部経験のある学生とどちらも運動部経験のない学生間において、身体満足度および自己概念ともに統計的な差は見出されなかった。しかしながら、運動部経験の方が運動部未経験者よりも少しではあるが身体満足度と自己概念において高い評定傾向を示していることがうかがえた。

今後は、以上の結果を参考に女子だけではなく男子学生についても調査を実施し、青年期における自己の身体に対する意識・態度が社会的・文化的な環境など経年的変化の中でどう変容していくのか、また運動・スポーツなど個人の身体経験の違いにより自己の身体および自己概念との間にどう関係しているのかなど、人間存在における身体を持つ意味について検討していきたい。

文 献

- 1) 相沢、太田、Body Cathexis と Self Cathexis に関する研究、日本体育学会第 28 回大会論文集 (1977)
- 2) Clifford.E., Body Satisfaction in Adolescence, *Percept.mot.skills*, 33, 119-125 (1956)
- 3) Jonson.L.C., Body Cathexis as a factor in somatic complains, *J.Consult.psychol*, 20.2. (1956)
- 4) Jourard.S.M.& Secord.P.F., Body Cathexis and the ideal female figure, *J.abnorm.soc.psychol*, 50.243-246 (1955)
- 5) 加藤隆勝、青年期の意識構造、その変容と多様化、誠信書房 (1987)
- 6) 北岡、松島、女子の Body Image についての発達的一考察、武蔵野女子大学紀要、15 (1980)
- 7) 北岡、松島、大学生の身体に対する意識・態度について、武蔵野女子大学紀要、32. (1997)
- 8) 北岡、松島、太田、女子の Body Image についての発達的一考察 (そのⅡ) 武蔵野女子大学紀要、16 (1981)
- 9) Lerner.R.M. & Karabenick.S.A., Physical Attractiveness, Body Attitudes and Self-Concept in Late Adolescents, *J.ofYouth.Adolence* (1974)
- 10) Lerner.R.M. Karabenick.S.A and Stuart.J.L., Relations among Physical Attractiveness body attitudes and self-concept in male and female college student, *J.Psychol*, 85.119-129 (1973)
- 11) 松島、北岡、武山、Body Image の性差に関する一考察、武蔵野女子大学紀要、14 (1979)
- 12) 松島、田村、高森、太田、岩淵、中島、北岡、Body Cathexis と身体的主訴についての一考察、日本体育学会第 27 回大会論文集 (1976)
- 13) 三宅、鈴木他、大学生の身体満足度、東京体育学研究、12 (1993)
- 14) 中島、太田、身体意識についての研究Ⅰ、大学生のボディ・カテクシス、順天堂大学保健体育紀要、23 (1980)
- 15) Rosen.G.M. & Ross.A.I., relationship of Body image to Self concept, *J.Consult.Clin.Psychol.*, 32, 100 (1968)
- 16) Secord.P.F. & Jourard.S.M., The appraisal of body cathexis: body cathexis and the self, *J.Consult.Psychol*, 17. (1953)